

第35回 中央区能に親しむ会

■とき 2022年7月10日(日) 午後2時開演(午後1時15分開場)

■ところ 25世観世左近記念 観世能楽堂 GINZA SIX地下3階

観世流能 花月 中村 政裕

和泉流狂言 佐渡狐三宅 右近

観世流能 菊慈童 中村 裕



花月 中村 裕



菊慈童 中村 裕

■入場料 指定席 7,500円 高・大学生 2,500円
自由席 5,500円 小・中学生 1,000円

■主催 中央区能に親しむ会

■後援 中央区
中央区社会福祉協議会
中央区勤労者サービス公社
中央区文化・国際交流振興協会
中央区P.T.A.連合会

＜入場券取扱い＞

中央区能に親しむ会 TEL・FAX 3590-3001
「伊場仙」吉田 TEL 3664-9261

チケットぴあ <https://pia.jp/>

Pコード 511675 興行コード 2209088

販売用URL

<https://ticket.pia.jp/pia/event.ds?eventCd=2209088>

e+ イープラス <https://eplus.jp>

購入ページURL

<https://eplus.jp/sf/detail/3242180001-P003000/>

事前の能楽講座を開催いたします。詳しくは裏面をご覧ください。

第三十五回 中央区能に親しむ会

時 令和四年七月十日(日)午後二時開演(午後一時十五分開場)
 於 二十五世観世左近記念観世能楽堂 GINZA SIX 地下三階

一、主催者ごあいさつ
 能に親しむ会会長 立石晴康
 大東文化大学名誉教授 三上紀史

午後一時三十分頃

能花

シテ花月 中村 政裕
 ワキ旅僧 村 瀬 慧
 大鼓 亀井 洋祐
 小鼓 船戸 昭弘
 笛 成田 寛人

間 清水寺門前ノ者 三宅 近成

後見 梅若 泰志
 梅若 万佐晴
 地謡 梅若 志長
 青木 健一
 古室 知也
 長谷川 晴彦
 伊加 藤真
 田 嘉章
 達 弥章

休憩二十分

午後三時四十分頃

狂言 佐渡狐

シテお奏者 三宅 右近

アド 佐渡の百姓 三宅 右近
 小アド 越後の百姓 高澤 祐介

仕舞 花

筐

クセ 梅若 万三郎

地謡 古室 知也
 伊藤 嘉章
 青木 一太郎
 梅若 泰志

休憩十五分

午後四時二十分頃

能 菊慈童

シテ慈童 中村 裕
 ワキ勅使 村 瀬 提

大鼓 柿原 弘和
 小鼓 幸 吾
 太鼓 林 雄一郎
 笛 藤田 朝太郎

後見 梅若 泰志
 梅若 眞悟
 梅若 紀長
 梅若 健一
 青木 久紀
 長谷川 晴彦
 梅若 青木 遠田 一修
 梅若 青木 万佐晴

終了予定 午後五時十五分頃

能花 月 (かげつ)

七歳の子供を見失ったことから出家した男(ワキ)が都の清水寺へと行くと、花月と名のる少年がいました。花月は門前の者と小歌を楽しんだり、花の枝のウグイスを弓でねらったり、清水寺縁起のクセ舞を舞って興じています。

僧がよく見ると成長したわが子ということが分かって対面をとても喜びます。花月は門前の人達との別れに舞を舞い幼時に天狗にさらわれて諸国の山々を巡った思い出を物語り、その後で父に伴われて修行の旅に出るのでした。

狂言 佐渡狐 (さどぎつね)

旅の道連れになった佐渡と越後の百姓が、佐渡に狐がいるかいないかで言い争いになります。刀を賭けて二人は役人に裁定を頼みますが、賄賂を送った佐渡の百姓の勝ちと決まります。納得のいかない越後の百姓は…。

能 菊慈童 (きくじどう)

魏の文帝に仕える廷臣が、勅命を受けて薬水の水源を探りに麴山山に行きます。その山奥の菊の咲き乱れた仙境に、慈童という童顔の仙人がいました。慈童は太古の周の穆王に仕えていた者で、王の枕をまたいだ罪でこの山に流されました。そのとき法華経の偈を枕に書いて賜ったので、その妙文を菊の葉にうつして流れに浮かべると、葉から滴るしずくが不老不死の薬となり、それ以来慈童は数百年間、年をとらなかつたのです。慈童は勅使の前で楽しげに舞を舞い、帝に長寿を捧げて祝福の言葉を述べます。三十五周年を記念してめでたく楽しい曲です。

「中央区能に親しむ会」事前能楽講座

初めての方でも楽しく能を鑑賞できるように演目の見どころの紹介、装束・能面の解説、また謡や仕舞の体験もあります。白足袋をご持参ください。

講師 観世流能楽師 中村 裕
 会場 東京都豊島区目白 2-20-2 裕世会稽古舞台
 TEL 03-3590-3001 中村 裕
 会費 1,000円 (入場券お持ちの方無料)
 日時 6月26日(日) 午後1時半より (事前予約が必要です)

